

令和5年度

図工・美術委員会

世話係 木村 令子（田川小） 委員長 野村 仁（梓川小）
委員 幸西 藍（梓川中） 高野 菊丸（明善中） 押澤 利満（清水中）
太田 綾子（島内小） 田多井留美（松本ろう）

目次

- I 研究のテーマ
- II テーマ設定の趣旨
- III 学習指導案
 - 一 塩尻市立塩尻西小学校 研究のまとめ
 - 二 塩尻市立丘中学校 研究のまとめ

I 研究のテーマ

「自ら発見し、自ら決める 図工・美術」

II テーマ設定の趣旨

普段の授業の中で、児童・生徒が自ら発見し、自ら決める授業になっているのかを、教師自らが自問したい。小さな発見や決定の繰り返しこそが、図工・美術科の楽しみや喜びにつながるものであり、自己肯定感や自己決定力を涵養していくと期待して、本テーマを設定した。

III 学習指導案

一 塩尻市立塩尻西小学校

図工科 学習指導案

4 学年 濱 敦

- 1 期日・場所 令和5年11月10日（金） 体育館
- 2 題材名 「ようこそ！ゆめのまちへ」（前5時間【A表現(1)イ(2)イ B鑑賞(1)ア〔共通事項〕】）
- 3 単元展開

	活動内容
第1時	自分のお気に入りの段ホールを選ぶ場面で、みんなで過ごした街の様子を想像し、触ってみたり、組んでみたりすることを通して、表したいことを見つける。
第2時	自分のイメージした建物をつくる場面で、大小ある段ボールを組み合わせたり、形をかえたりすることを通して、自分のイメージを表現することができる。
第3時	自分のイメージした建物を作る場面で、つくりたいことや表現したいことを周りの友達と共有することを通して、形や材料などを生かしながら、友達と協力してつくることことができる。

第4時	みんなで過ごしたい街に必要なもの作る場面で、友達と相談しながら、形や材料などを生かし、協力してつくることを通して、自分の見方や感じ方を広げることができる。
第5時	完成したゆめのまちで過ごす場面で、自分の作品を友達に紹介することを通して、自分や友達のつくった作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ることができる。

4 本時案

(1) 本時のめあて

自分のイメージした建物をつくる場面で、大小ある段ボールを組み合わせたり、形をかえたりすることを通して、自分のイメージを表現することができる。

(2) 展開

段階	活動内容
導入(1)	今日やりたいことを確認する。(3分)
導入(2)	材料の確認をする。(1分)
活動 (35分)	活動①大小様々な形の段ボールを組み合わせたり、形をかえたりして自分のイメージした建物をつくる。 ※材料の選択や表し方で困っている児童には、相談スペースに集まり、友だちの作品を見て回るようにする。
まとめ	本時の学習のふりかえりをする。(4分) ※タブレットで学習のふりかえりをする。
片づけ (2分)	・使わない段ボールは、ステージへ ・小さい段ボールはリサイクルボックスへ ・段ボールカッターとガムテープは、指定の箱へ

(3) 評価

- A 街全体のイメージをもち、段ボールの形の感じや組み合わせによる感じから自分のイメージを表現しようとしている。
- B 段ボールの形の感じや組み合わせによる感じから自分のイメージを表そうとしている。
- C 自分のイメージに対する材料の選択や表し方を思いつくことができない。

【Cになりそうな児童への手立て】

友だちの制作活動を参考にできるように一緒に見て回る機会を設定する。

塩尻西小会場 研究のまとめ

1 研究内容

- (1) 題材との出会わせ方や場の設定の工夫。
- (2) 表現に結びつけるための教師の出や用具の使い方の示範について吟味した。
- (3) 支援と試行錯誤させる場の設定の工夫。
- (4) 段ボールを用いた立体表現の題材化。

2 当日の授業（詳細については指導案参照）

(1) 題材名「ようこそ！ゆめのまちへ」

【A 表現(1)イ (2)イ B 鑑賞(1)ア 〔共通事項〕】

(2) 全5時間中第2時間目

3 授業研究会

討議の柱 自分で発見し、自分で決める姿は、本時どのような姿として表れていたか。

【今までの活動や学習を生かしている姿】

- ・段ボールの特徴をしっかりと把握していた。
- ・すきまに差し込んで強度を上げている姿はクミクミックスでやったことが生きているのではないか。
- ・切り込みを生かそうとする姿もあった。

【担任の支援で制作が進む姿】

- ・どうしても段ボールが倒れてしまっていたところで、担任の先生が来て支えてくれて、窓の切込みを入れることができた。ここからどんどん制作が進んでいった。
- ・担任の先生が来たことをきっかけに、立てたり向きを変えたりして扉にするなど思いつく姿が見られた。
- ・考えて作る時間が確保されていた。養生テープやダンボールが十分あることもよかった。
- ・ダンボールカッターと養生テープはつくる気持ちを支えていた。
- ・子どもの力を発揮できる場の広さがあった。ダンボールカッターは切りにくさや上手くいかないことを試せる時間があった。
- ・その場に来た先生の「段ボール探す？」とか「近未来的になった？」という声かけや、段ボールのつなげ方について「良いアイデアだね」と認める声かけは、Sさんの気持ちを表現主題に戻して作品の出来具合を確認することや自分の制作に自信を持つことにつながり有効だった。

【制作に夢中になる姿】

- ・支えを強化して屋根が倒れないようにしていた。他の子が思いつかないような技術を使って夢中になっていた。
- ・友だちには助けを求めなかった。まだまだ自分でどうにかしたい段階だったのではないか。自分の制作に満足いった時に友だちの様子にもっと目が向くのではないか。
- ・会話は少なかった。とても集中している様子で作りこんでいた。課題を明確に持ち、取り組んでいたのだと思う。担任の先生の声かけがよく、意欲につながっていた。
- ・自分のイメージを試し、納得するとテープで貼っていた。つくって、つくり変えて、自分で発見し、決めることで独特な表現につながった。イメージに向かった試行錯誤を大切にすることで自分のつくりたいものをつくる世界に入れた。
- ・つくりたいイメージがあり、1時間通して自分のビジョンがはっきりしていた。
- ・「建物は中に入ってみると、窓があるよ、のぞけるよ、見えるよ」というイメージをもっていたことで、イメージに向かって制作することができた。

【試しながら偶然の発見をし、良さと価値づけていく姿】

- ・お城をつくっていた。扉からつくり入ってみる。入ってみて、次どうするかという姿がたくさんあった。反対側にも扉をつくる。
- ・強度の増し方の工夫は本人も自信をもって発見したと言える姿になっていた。
- ・背もたれをL字型にすることが難しく、どのようにすれば安定するのか工夫を繰り返した。補強となる段ボールを斜めに当てて支えたとき上手くいった。
- ・2階をつくって自分が乗ってみるとつぶれた。諦めず何度も作り直して乗れた時喜んだ。ダンボールの特徴を生かしながら丈夫にすることを試し、丈夫な床をつくる工夫が続けられた。
- ・ダンボールが倒れてしまうことに苦労していたが、扉を二重にした時うまい具合に立った。
- ・つくりながら出来上がる偶然の形や状態が子どもたちのイメージに近づき、新たな発見や形の決定をする姿が見られた。

4 指導主事指導

- ・ねらいを達成するための具体的なポイント
 - 仲間と関わり合い対話する環境をつくり、どのように自分の思いを表すのかを子ども自身が考えることができるようにすること。
 - 材料や用具を置く場所を設け、材料を比べ、比較しながら選べるようにすること。
 - 表しながら次第に表したいことをはっきりさせていくように試しながらできる活動場所を用意すること。
 - 材料や用具を置く場所を設け、比較しながら選べるようにすること。
 - 「やってみたい」や期待感を膨らめることができるような題材との出会いがあること。
 - 興味をもって子どもと話、認める教師の共感的な声がけ。
 - 次時の目標につながる振り返りの場があること（資質・能力を支えるICTの活用）。
 - 既習の体験や学びを生かせる題材であること。

5 成果と課題

- 段ボールを素材とした立体表現は、特に試しながら活動する広い場が大切である。今回、子ども達が自己表現に向け活動しやすい環境（体育館）を提案し、子どもたちの様子を見ていただいた。
- 素材として段ボールを使用した単元を年間計画に複数入れ、既習の活動を生かせることができた。
- 仲間と関わり合い対話する環境づくりについてはさらに考える必要がある。

美術科 学習指導案

授業学級 2年1組 34名
授業者 上條 達矢

1 題材について

(1) 題材名 「アル me マル～私を動物に投影させて～」(全8時間)

【A 表現 (1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ) B 鑑賞 (1) ア (ア) 共通事項 (1) アイ】

(2) 題材設定の理由

生徒会活動の引継ぎを控え、最高学年にふさわしい姿になれるようにと日々生活している2年生。美術においては、プレッシャーや恥ずかしさから、素直に自己表現をすることに抵抗感を抱いている生徒も少なくない。本題材では、自分自身と向き合い、自らを広大な自然界で生きる動物に投影させ、自身の大切にしたい性格や抱いている思い(夢や希望、願いや憧れ)を個性豊かな動物固有のフォルムや体の動きなどに置き換えて、アルミ箔で表現していく。自身の思いと重なる動物を選び、それが伝わる瞬間を自ら決め出し、効果的な表現方法を自分なりに発想し、創造していく姿を目指したい。制作の過程では、友達とのコミュニケーション(交流)を通して、作品の工夫に込められた多様な考え方に触れて考えを巡らせることで、主題を深化させ、表現を工夫する姿が見られると考えている。また、素材としたアルミ箔は瞬間的に形づくることができ、様々な質感を表現しやすいことから、短時間の中でも試行錯誤をしながら主題に迫る表現ができると考えた。

2 題材の目標

知識・技能：自らの思いが表われるよう、動物の形の特徴、瞬間の表情や体の動きに着目し、懸命に生きる動物の印象や躍動感をとらえ、材料の特性を生かして表すことができる。

思考・判断・表現：自分自身の性格や抱いている思い(夢や希望、憧れ)を動物に投影し、個性豊かな動物固有の表情や体の動きなどに置き換え、形や材料の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりできる。

学びに向かう力・人間性：思いに合わせて、動物の特徴やイメージなどをとらえて表すことに関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<p>知：形や材料が感情にもたらす効果や、表情やしぐさなどを基に、生き物の印象などを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技：材料の特性を生かし、伝えたいことに応じて自分の表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表している。</p>	<p>箔：自身と向き合い、性格や思い(夢や希望、憧れ)を基に主題を生み出し、動物の姿に置き換えて強調や単純化、省略したり、材料の効果を考えたりして、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑：造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表：試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組もうとしたり、よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善しようとしていたりしている。</p> <p>態鑑：造形的な視点を活用しながら、よさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしている。</p>

4 指導と評価の計画（全8時間中 本時：6時間目）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
<p>1. 発想（2時間）</p> <p>●マインドマップを使用して今の私と向き合う。 ・自分自身を動物に投影させ、抱いている思いを個性豊かな動物固有のフォルムや体の動きなどに置き換えて表現していくことを知る。 ・様々な視点から私について考え、たくさんの言葉を書きだし、イメージを膨らませる。 ・マインドマップの中から、「今の私」に一番しっくりくる言葉を選び主題を考える。</p> <p>●動物固有の特徴が与える感情効果やイメージについて考える。 ・いくつかの動物の写真を比較しながら観察し、その動物固有の形の特徴やしぐさ、印象や感じたイメージについて話し合う。</p> <p>●参考作品を鑑賞し、作者の心情や意図に応じた表現の工夫について考える。 ・作者が自身を動物のどんな姿と重ね合わせて表現しているかを考える。 ・材料の質感の工夫にはどんな効果があるか考える。</p>	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>発</p> <p>↓</p>	<p>態</p> <p>↓</p>	<p>発 自身と向き合い、性格や思い(夢や希望、憧れ)を基に主題を生み出しているかどうかを見取り、できていない生徒に対してワークシートに書かれた言葉を取り上げ指導を行う。【活動の様子、学習カード】</p> <p>態 形が感情にもたらす効果や、表情やしぐさなどを基に、生き物の印象などを全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【活動の様子、学習カード】</p> <p>態 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などについて考えようとしているかを見取り、できていない生徒に対して主題から作品を見つめられるよう声掛けを行う。【活動の様子、学習カード】</p>
<p>2. 構想（3時間）</p> <p>●主題を基に構想を練る ・マインドマップに立ち返り、自分自身を効果的に表現できる動物を決め出す。 ・動物イメージマップを用いて、主題と結びつく動きなどを具体的にイメージする。 ・交流で意見交換をしながら主題をはっきりさせていく。 ・自分を投影する動物をインターネットなどで調べ、動きの特徴を捉える。 ・手足の長さなどのプロポーションや、ポーズをどう強調したり省略や単純化したりするとより主題が伝わるか考える。 ・アイデアスケッチをしたり、イメージに近い画像を集めたりする。</p> <p>●アルミ箔での制作手順、成形の技法について見通しをもつ。 ・実際にアルミ箔に触れながら技法や表現できる質感を確かめる。 ・表情や動きを表す「オノマトペ」をきっかけに表現を試し、確認し合う。</p>	<p>技</p> <p>↓</p>	<p>発</p> <p>↓</p>	<p>態</p> <p>↓</p>	<p>発 自身の主題を動物の姿に置き換えて強調や単純化、省略したり、材料の効果を考えたりして、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかを見取り、できていない生徒に対して主題と動物の共通のキーワードを示して考えられるようにして指導を行う。【活動の様子学習カード】</p> <p>因 材料の特性を生かし、伝えたいことに応じて様々な表現方法を試して、多様な表し方を身につけているかを見取り、できていない生徒には他の生徒の試作を紹介するなどして、工夫について考えられるように指導を行う。【作品、学習カード】</p> <p>因 材料の特性を生かし、伝えたいことに応じて自分の表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表しているかを見取り、できていない生徒に対して主題をもう一度見返させたり、試作で使えそうな技法と関連させて再考させたりするなどの指導を行う。【作品、学習カード】</p>

<p>3. 制作（2時間）</p> <p>●発想や構想を基に、自分の主題に合うよう表現を工夫して制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の主題に応じて、動物の表情や動き・アルミ箔の質感を工夫して表す。 制作の途中で鑑賞を行い、友達の作品を見たり、自分の意図を説明したりして、表現したいことを明確にしながら作品を完成させる。 	<p>技</p> <p>↓</p> <p>知・技</p>	<p>発</p> <p>↓</p> <p>発</p>	<p>態表</p> <p>↓</p> <p>態表</p>	<p>【技】材料の特性を生かし、伝えたいことに応じて自分の表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表しているかを見取り、できていない生徒に対して主題を見返したり、試作で使えそうな技法と関連付けたりして再考できるよう指導を行う。【作品、学習カード】</p> <p>【態表】試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組もうとしたり、よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善しようとしていたりしているかを見取り、できていない生徒に対して表現の意図を問い返して意図を確認しながら指導を行う。【活動の様子、学習カード】</p>
<p>4. 鑑賞（1時間）</p> <p>●作品を鑑賞し、作者の思いや表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品に込めた思いや表現の工夫などについて互いに発表し合う。 友達の作品のよさや表現の工夫に肯定的な見方で共感しながら味わい、新たな見方や感じ方を広げる。 	<p>知</p> <p>↓</p> <p>知</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p> <p>鑑</p>	<p>態鑑</p> <p>↓</p> <p>態鑑</p>	<p>【鑑】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、美意識を高め、見方や感じ方を深めているかを見取り、できていない生徒に対して作者の心情や表現の意図について考えられるよう指導を行う。【発言、学習カード】</p>
<p><授業外：題材が終了後></p>	<p>知・技</p>	<p>鑑</p> <p>発</p>		<p>【知・技】完成作品やワークシートなどから【知・技】の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート】</p> <p>【鑑】作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかどうかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> <p>【発】発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート】</p>

5 本時の学習

- (1) 主眼 素材体験により表現の可能性や主題に迫る表し方を試した生徒が、マインドマップや示範を見たり、友達との交流を参考にしたりしながら、アルミ箔の特性を生かして主題を表すために自分の表現方法を追求することができる。
- (2) 指導上の留意点
- 試作で行ったアルミ箔の表現を掲示し、性質や質感を参考にできるようにする。
 - 自然に交流が生まれるよう、教室環境に工夫をする。
 - グーガンを使用する際には、軍手を着用し、決められた場所で安全に使用できるようにする。

(3) 展開

段階	○学習活動 ・生徒の姿	◇指導・支援 評価	時間
導入	<p>○前時を振り返る。</p> <p>・私を動物で表現するために、試作をして構想を練ったな。</p> <p>○示範を見て見通しをもつ</p> <p>・マインドマップを確認しながら作ればいいな。</p> <p>○各自主題を確認して、どのように表現をするのか見通しをもつ。</p> <p>・「力強く跳ぶ」を表現するために、トビウオのヒレを大きく広げたり、体をひねらせたりしてみよう。</p> <p>・「のんびりな私」を表現するために、ナマケモノをつくろう。どんな姿にしようかな・・・。</p> <p>○例を参考に班で伝え合い、友達の考えを知る。</p> <p>・なるほど、例のように伝えればいいんだな。</p> <p>・Aさんの表現面白いな。</p> <p>・Bさんのやり方を私も試してみようかな。</p> <p>・いろんな表現の仕方があるな。</p>	<p>◇アルミ箔で色んな技法で様々な質感を表現できたことを確認する。</p> <p>◇示範を見せて興味をもてるようにする。</p> <p>◇主題と主題を表すための工夫を生徒に問う。</p> <p>◇ただ動物を形づくるのではないことを確認する。</p> <p>◇マインドマップや動物のイメージマップを見て、制作の見通しをもてるようにする。</p> <p>◇選んだ動物のどんな表情やポーズで主題を表現しようとしているのか、問い返しをしながら、具体的にイメージできるようにする。</p> <p>◇紹介の例を見せる。</p> <p>◇自信をもって制作できるよう、一人ひとり表現方法に違いがあってよいことを認める。</p> <p>◇制作しながら表現方法が変化してもよい</p>	10
<p>今日はこれ：選んだ動物の表情やポーズを、アルミの質感や形の組み合わせ方を考え工夫して自己表現しよう。</p>			
制作	<p>○制作の注意点を確認する。</p> <p>・パーツによって接着方法を工夫しよう。</p> <p>○各自主題が表われるよう制作を行う。</p> <p>・主題が表われるように、重要な羽から作ろう。</p> <p>・何から作ればいいかなあ・・・。</p> <p>・意外と難しいなあ。思うようにいかないな・・・。</p> <p>・この角度からの見え方がイマイチだな。もっと主題が伝わるように形を変えてみようかな。</p> <p>・どうしようかな。友達の作品が気になるから見てみようかな。</p>	<p>◇アルミの接着方法の確認をする。</p> <p>◇グルーガンを使用する場合には軍手を着用するよう伝える。</p> <p>◇制作時間の目安を伝える。(約20分)</p> <p>◇一番主題が表われている部分から作るよう促す。</p> <p>◇常に主題を意識できるように声をかける。</p> <p>◇思うように形作れない生徒には、表現したいことに合わせて、試作の中から使えそうな表現を示し、制作の見通しがもてるように促す。</p> <p>◇360度様々な角度から作品を見て、見え方を確認しながら制作できるよう声をかける。</p>	20
／ 交流		<p>◇制作しながら、席を立てて友達の作品を見てもよいことを伝える。</p> <p>◇制作途中でも一度手を止めて、途中経過を</p>	5

発 想 / 制 作	<p>○班ごとに作品を鑑賞して、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力強さが表われるように、体をくねらせたよ。羽を大きく広げて数も増やしてみたよ。 ・もっと腕を長くしてみたらいいいんじゃない？ ・思うように表現できなくて困ったな・・・。 <p>○交流をして感じたことを作品に生かして制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cさんに言われた表現は見えそうだな。 ・Aさんみたいに作ったらより伝わりそうだな。 	<p>伝えたり、感想を伝え合ったりするよう促す。</p> <p>◇友達の前表現のよいところや、困っている友達には私ならどんな工夫をするのかを伝え合うように声をかける。</p> <p>◇交流でもらったアドバイスを作品に生かせるよう、制作が停滞している生徒に声をかける。</p>	10
ま と め	<p>○本時の制作を振り返り、ワークシートに感想記入と写真を貼りつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し主題が表われるように、工夫をしたいな。 ・Aさんのようにもっと特徴を大きく表現してみようかな。 ・どの方向から見ても主題が伝わるように工夫してみたいな。 ・次回はパーツを組み合わせてみようかな。 ・うまく形にならなかったけど、Bさんのように作ったら表現できそうだな。 	<p>◇ロイロノートを使用して工夫点やうまく表現できたこと、次回への課題を記入させる。</p> <p>◇本時の作品写真を気に入った角度で撮るよう声をかける。</p> <p>◇入力ができたら、友達の感想に目を通すよう促す。</p> <p>◇時間を見て、何名かに感想を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>技アルミホイルの特性を生かし、伝えたいことに応じて自分の表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表している。【作品、学習カード】</p> </div> <p>◇片付けの指示を出す。</p> <p>◇次時の予定を伝える。</p>	5

丘中会場 研究のまとめ

1 研究内容

- (1) 主題(表したいこと)をもち深めるために、マインドマップやイメージマップを用いた。
- (2) 主題(表したいこと)と表現の工夫を結びつけるため、教師の問い返しを大切にしたい。
- (3) 自然に中間鑑賞(対話的な学び)が行われるよう、学習の場の設定に工夫をした。
- (4) アルミ箔を用いた立体表現の題材化を行った。

2 当日の授業(詳細については指導案参照のこと)

- (1) 題材名「アル me マル ～私を動物に投影させて～」
【A 表現(1)ア(ア) (2)ア(ア)(イ) B 鑑賞(1)ア(ア) 共通事項(1)アイ】
- (2) 全8時間中第6時間目

3 授業研究会

- (1) 主題をもち深めるために、マインドマップやイメージマップは有効であったか。

- 主題をもつためには有効であった。深めるには足りないが、対話の中で深まっていく。
 - 有効だった。しかし言葉に縛られないようにすることも大事。
 - 自分の主題を確認して、全員が主題に向かっていたので有効だった。
 - タブレット以外に、テキスト(紙ベース)でもあってもよかった。
 - パソコンの画面を頼りに再現を目指しているように感じた。形にこだわっている生徒が多かった。 他
- (2) 教師の問い返しは、主題と表現の工夫を結びつけるために有効であったか。
- 細かく見直しをもつ導入場面が有効であった。示範もよかった。
 - 主題を問い返し、「こういう感じがいいね」と認めながらの問い返しに意味があった。
 - 先生との会話で、生徒の気持ち(主題)を引き出せていた。引き出した内容がグループの人たちにも伝わり、本人も納得いくものになった。
 - 主題「勇気をもって」のイメージが制作に活かされていた。制作でぶれてしまうところ、問い返しによってシャープな形になり、羽を平らに作り直した。先生の問い返しが道しるべとなっていた。
 - 問い返しによって主題からぶれないように頑張ろうとしている生徒が多かった。
 - 有効だった。主題がまとまっていなかった生徒が、先生とのやり取りの中で形と主題を結びつけていた。
 - 「どんな感じ?」「ひねって見たら?」等アドバイスし合っていた。高め合いがありやる気になっていた。
 - 予め主題をつかんでいて、個々の問い返しにより(主題と形を)うまくつなげていた。 他
- (3) 学習の場のデザインは、生徒が自然に学び合うために有効であったか。
- グループの座席にすることによって教え合い、「どう思う?」「〇〇に見える?」などの会話が生まれていた。作りながら自然にアドバイスし合う姿があった。どこで制作してもよい、自由な雰囲気がいい。
 - 自由に制作する姿。表現が似ているグループ分けでは、話が深まっているのではないか。
 - トンカチグループは音が大きく集中できなくなってしまうので、トンカチゾーンをつくるといい。
 - タブレットの画面が見えづらい。主題が伝わっていないと、相手に合わせたアドバイスがしにくい。
 - 共通点がある人のグループの方が意義がありそう。 他
- (4) アルミ箔を使った立体表現の題材について。
- アルミホイルという素材、形で表せ、自由になる部分が多くいろんなものを兼ねそろえている。
 - アルミ箔の厚み11マイクロメートルも教材研究によるもの。生徒にとって造形しやすい。
 - アルミは面白い素材。扱いやすく様々な形や質感を表現できると感じた。
 - 芯材を入れなくても自立できる素材の使用は、生徒のイメージをすぐに具現化できる点で素晴らしい。
 - アルミの可塑性や密度。切る、貼るなど注目すべき特性が多く、興味深く感じた。
 - アルミの強さ、素材のよさを感じた。生徒たちの手になじんでいた素材だった。 他
- (5) その他
- 20分の制作時間。交流の必要感が感じられない。もうちょっと制作の時間が欲しい。
 - 制作に集中しているときに「ねえ、ねえ」と話かけるのは遠慮しなくてはいけない。 他

4 感想

- 生徒達が、考えや学習の過程をワークシートにまとめることに慣れている様子があり、一つのツールとして位置づいていることが伝わってきました。見返す生徒も多くいたように思いましたが、内容を深めることと制作の両立に大変さがあるかもしれないと思いました。

- 主題決めを丁寧にしてあり、マインドマップなどが生かされていた。何度も見返していました。主題を伝えあってグループで話しながら作りやすい状況が生まれていました。制作と練り直しを区切って展開したこともメリハリがありました。短時間題材にはこのくらいのテンポがよいと感じました。
- 先生から一言ほしい生徒は多そうでした。先生がくれる問いが、気づきにつながる経験によると思った。
- 先生が回ってきて主題を振り返らせたり、主題と表現とのつながりを確認したりすることで、生徒たちは主題に立ち返って制作に向かえていました。
- この題材から自分なりに題材が浮かび、現在わくわくしております。アルミホイルの可能性を感じます。
- 事前の授業を見せていただいた後、授業者の先生と生徒の会話、問い返しがいいと思い、自分の授業でも実践してみました。生徒の中で表現主題が明確になり、作品が変わってきたように感じます。本日の授業も生徒が実験するように、時々先生や生徒同士で会話しながら制作していく姿が印象的でした。
- 素材研究が素晴らしい。研究会の先生方の教材研究も素晴らしいと思いました。私もアルミやほかの素材でも、このような授業をしてみたいと強く思いました。中信ブロック大会の運営に関わられた先生方、ありがとうございました。

他

5 主事指導

- 自己を動物に投影させ表現する題材や動物を作る題材等の教科書題材の紹介と、小・中のつながり。
- マインドマップに表現した言葉からどんな自分が見えてくるのかを大切にすること。
- 見た通り作ることが追求要素になりがちだが、感情を絡ませる指導をすることが必要。アルミ箔は再現に気が行きにくいよさはあるが、本題材では再現性も重要。鑑賞の際に、アルミ箔で作ったことにより目に見える形の奥に、主題を表している感じがしてくることを感じ合えるとよい。

6 成果と課題

- 立体表現の素材として、アルミ箔のよさを提案することができた。
- 主題と表現とを結びつけるための教師の問い返しの工夫について提案することができた。
- ワークシートや資料収集におけるタブレット活用のよさはあるが、見返したり、共有したりするために紙ベースとの使い分けの効果的な方法や、資料画像の使い方について考える必要がありそうである。